

宮古

ワイドーぱり

「活力ある農業」の意味 (ワイドー=がんばれ、ぱり=畑)

発行所
宮古農林水産振興センター農業改良普及課
〒906-0012 宮古島市平良字西里1125
TEL : 0980-72-3149
FAX : 0980-72-9751



第33回沖縄県野菜品評会で13名入賞

沖縄県野菜品評会において、285点(宮古地区7品目30点)が出品され、宮古地区の3品目4点が金賞を受賞しました。

【金賞】

さやいんげん

- 上地美香さん (農林水産省農産局長賞)
- 石垣充雄さん (沖縄県農林水産部長賞)

とうがん

- 砂川博昭さん (沖縄県知事賞)

ゴーヤー

- 宮国泰久さん (沖縄県青果物流通協議会会長賞)

【銀賞】 かぼちゃ、ゴーヤー、とうがん 全5名

【銅賞】 かぼちゃ、ゴーヤー、とうがん 全4名

かぼちゃ・ゴーヤー・とうがん部門では、宮古地区で入賞を独占、さやいんげんでは全体で20点以上の出品があるなか2名が金賞を受賞し、各部門を大きく盛り上げる成績を収めました。



さやいんげん



とうがん



ゴーヤー

令和7年度 沖縄県農林漁業賞 表彰式



1月24日(土)、奥武山公園で開催された「おきなわ花と食のフェスティバル2026」の特設ステージで沖縄県農林漁業賞表彰式が行われ、宮古地区から農産部門の砂川明寛氏、園芸部門の久保弘美氏、下地堅士朗氏、漁業部門の仲本博一氏が表彰されました。同賞は技術の近代化及び協業化の推進等で成果をあげ、農林漁家の模範となる実績をおさめた農林漁業者及び農林漁業生産集団の中から特に優秀な方を選定して表彰するものです。

宮古地区 産業振興賞 表彰式



11月2日、第48回宮古の産業まつりにおいて、宮古地区産業振興賞の表彰式が、JTAドーム宮古島屋内ステージで開催されました。

農林水産部門では、たらま花保存会(多良間：ハーブ類栽培、たらま花茶加工等)、前里孝清氏(下地：さとうきび、作業受託(元宮古地区さとうきび管理組合長))、川満敏氏(平良：さとうきび、作業受託(元沖縄県農業機械士協議会宮古支部長))が宮古地区の農業振興や文化継承などに対する貢献が大きいことが評価され、表彰されました。

たらま花保存会は、農業分野の活動だけでなく、伝統文化の継承、児童生徒の体験活動、観光業との連携などでも大きな成果を上げています。

表彰は、産業まつりに来場された多くの市民や家族、知人、関係機関が見守る中で行われました。



右から 1番目：たらま花保存会(代理 多良間村観光課長)
2番目：前里孝清さん
3番目：川満敏さん

エコファーマー認定者紹介(再認定・新規認定)

12月17日、宮古農業改良普及課でエコファーマー認定証交付式が行われました。今回、再認定された2名(遠藤修氏、農業生産法人株式会社ミナバ果樹園代表取締役 可部裕文氏)は、10年以上継続してエコファーマー認定を受けており、環境に優しい農業を継続して取り組んでいます。また、新規認定された4名(砂川信祐氏、新里真弓氏、下地光輝氏、新里拓也氏)は、新規就農と合わせて認定を受け、就農時から環境に優しい農業の実践に取り組んでいます。

宮古農林水産振興センター金城所長より認定証の交付を受けた認定者からは「認定に恥じないよう取り組んでいきたい」との意気込みの言葉がありました。

宮古島市では現在、野菜農家5戸、マンゴー農家8戸の計13戸がエコファーマー認定を受けています。



認定者は、左記マークをシール、包装容器・包装箱、ポスター、チラシ、ワッペン、名刺等に表示することができます。

地域農業振興総合指導事業

宮古島のさとうきび生産体制の強化

さとうきびの単収向上を目指して、重点的に地力増進と受委託体制の強化に取り組んでいます！
今回は、これまで取り組んだ土づくりの工夫や、経営管理の事例を紹介します。

土づくり ～堆肥散布機を活用しましょう～

令和6年度に、城辺地区と伊良部地区の法人に堆肥散布機が新たに導入されました。上野地区や平良地区にも堆肥散布事業者がいますので、宮古島の補助も活用して堆肥散布をしてみましょう。
土づくりはコストもかかりますが、栽培体系(夏植-株出し2回)を考えると、4年に1回でも堆肥を投入することで、根の張りが良くなるのが期待できます。



城辺地区のNewマニュアルプレッタ



伊良部地区で貸出可能な堆肥散布機

根の張りが良くなると、肥料を効率的に吸収できるし、台風の時も株が浮きにくくなるね

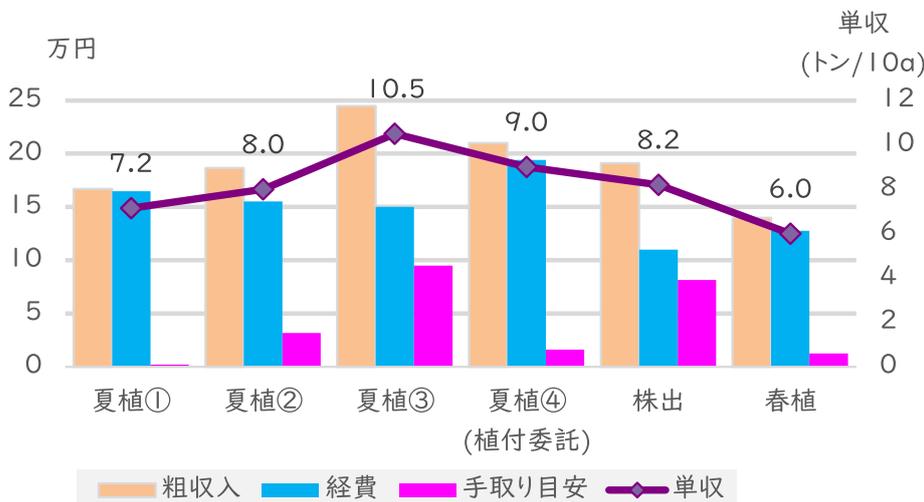


栽培コスト ～経費はいくらかかっていますか？～

さとうきびを栽培するとき、肥料や農薬などいろんな資材を使っていますよね。他にも、株出し管理作業や心土破碎(プラソイラ)、植付、収穫作業を委託したりすることもあると思います。

これらの資材や作業委託には、いくら経費をかけているか計算していますか？もうけを計算してみましょう。

下のグラフは、6つの畑の事例です。経費は10アール当たり10万～20万円かかっているようです。経費を削減するのは皆さん既に取り組んでいると思いますので、「かん水」や「除草」にも取り組んで手取りを増やしましょう。



内容をもっと詳しく知りたい方は担当者まで連絡下さい。

農業改良普及課
ホームページで
さとうきびの栽培管理
の目的などを随時掲載
しています。
ぜひご覧下さい。



春作オクラについて(病害虫編)

(1) 苗立枯性病害・・・4種の糸状菌が関与している。特にフザリウム菌は、薬剤での予防が難しい。

☆対策

- ①連作しない
- ②播種前にユニフォーム粒剤の散布
- ③発芽後はかん水を控える
- ④排水対策を徹底する
- ⑤防風ネット等による風対策



気温がある程度高くなってから(2月末～3月以降)に植付けを行いましょう

(2) ネキリムシ・・・夜に土の中から出てきて、茎を切り取るように食害。一晩で大きな被害となることもある。

☆対策

- ①薬剤による防除
- ②栽培前の圃場に雑草が多いと発生しやすいため、雑草の防除を行う



(3) アブラムシ・・・被害が大きくなると芯が止まる。つぼみや新芽、葉の裏に多く見られる。

☆対策

- ①植付時、粒剤の散布を行う
- ②早期防除、世代交代が早いいため、ローテーション散布を行う



(4) オオタバコガ・・・幼虫は葉、茎、実を食害し、実を食害されると規格外となってしまう。また、幼虫が大きくなると農薬が効きにくく、防除が難しくなる。

☆対策

- ①つぼみを中心にBT剤の定期的な散布による予防、防除を行う
- ②大きめの幼虫には速効性のある農薬で!



(5) ヨコバイ・・・葉の裏に多く、葉が黄変・萎縮し生育不良になる。イボ果の原因となることもある。

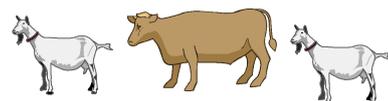
☆対策

- ①早期発見、薬剤による早期防除を行う
- ②薬剤が少ないのでアブラムシ等と同時防除を行う





多良間村だより



～令和7年度沖縄県畜産共進会において好成績を収める～

令和7年11月1日に南部家畜市場にて開催された第51回沖縄県畜産共進会 肉用牛部門において、多良間村から若雌第2類(1頭)、高等登録群(2頭)に計3頭出品しました。多良間村から県共進会の高等登録群への出品は今回が2回目で、前回に引き続き素晴らしい結果を収め、高等登録群で豊見城畜産さん出品のゆうこ号(母)、ゆりひめ号(娘)が優等3席を受賞しました。審査講評では、母から娘への皮膚のゆとりや体上線の強さ、骨味の継承など斉一性に優れていた点が美点として評価されました。



～畜産農家向け講習会の開催～

JAおきなわ多良間支店会議室にて見出しの勉強会を、和牛改良組合多良間支部及び宮古家畜保健衛生所と連携して開催し、農家をはじめ、関係者約20名が参加しました。勉強会では、①牛伝染性リンパ腫との付き合いかた(宮古家保:嶺井技師)②分娩事故対策の基本・推奨県有種雄牛の紹介(宮古家保:長岡主任)③草地管理(施肥)について(多良間駐在:春島)の内容で行いました。参加農家は熱心に聞き入っており、意欲の高さが伺えました。農家の資質・所得向上に繋がるよう、引き続き関係機関と連携し、活動していきます。



R7.11.12 勉強会の様子

肉用牛研究クラブの紹介



宮古地区の肉用牛繁殖農家の生産技術向上や仲間づくりを目的に活動する組織です。現在、若手農家を中心に、宮古島市と多良間村合わせて27名が加入し、勉強会や牛舎・牧草地での現地検討会などを行っています。LINEグループでは、講習会や畜産情報をお知らせします。加入希望の方はお気軽に普及課までお問合せください。

現地検討会

- 長大飼料用作物ギニアグラス展示圃の視察
- 栽培管理について意見交換
- 優良農家の牛舎視察
- 外部講師を招いての若手畜産農家牛舎視察・情報交換
- 若手畜産農家や指導農業士の牛舎視察・情報交換



講習会

- 堆肥化の原理
- 飼養衛生管理
- 牧草成分について 等



沖縄県農業機械士協議会宮古支部の活動紹介

農業機械士協議会とは、農業機械士養成研修に合格し県知事から認定を受けた“農業機械士”の組織で、令和8年1月時点で57名の会員が在籍しています。農作業安全啓発を進め、農業機械の知識・技術向上、情報交換を促進しながら幅広く活動しています。

情報交換・勉強会



役員会・定例情報交換会



勉強会

視察・技術研修



農業資材展示会(農業WEEK)視察



スマート農業機械講習会

農作業安全啓発



機械安全操作研修の講師



農作業安全パトロール

みゃーくの味加工推進協議会 活動紹介

- みゃーくの味加工推進協議会は、女性加工起業者13起業13名(内多良間会員3名)が加入し様々な組織活動に取り組んでいます。
- 活動目的は、農林水産物の付加価値向上、食文化や技術の継承、起業者間のネットワーク形成等です。



イベント参加(宮古の産業まつり)

宮古の農林水産物を加工した佃煮、お菓子、惣菜等の商品を販売。イベントを盛り上げました!



学校給食栄養士への講習会

食文化継承のために、地域産物のレシピを伝えています。今回は、ソーギー(いもの葉)料理でした!



定例会

2~3か月に一度集まっています!



活動の様子は
こちらから →



@MYAHK.NO.AJI

沖縄県では県産農林水産物を主原料とした商品開発に取り組む農林漁業者等を支援する事業を実施しています。詳しくは、農業改良普及課 農産物活用担当までお問い合わせください。